



2020年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年7月10日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長 社長執行役員

（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）IR室長

（氏名）藤波 俊行

TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2019年7月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2020年2月期第1四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年5月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第1四半期	38,131	0.3	△59	—	74	△77.5	△122	—
2019年2月期第1四半期	38,015	2.3	207	△89.9	331	△84.2	△2	—

（注）包括利益 2020年2月期第1四半期 △30百万円（－％） 2019年2月期第1四半期 △28百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第1四半期	△3.20	—
2019年2月期第1四半期	△0.08	—

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載していません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第1四半期	87,410	59,443	67.2
2019年2月期	87,387	60,623	68.6

（参考）自己資本 2020年2月期第1四半期 58,741百万円 2019年2月期 59,923百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2020年2月期	—	—	—	—	—
2020年2月期（予想）	—	30.00	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	78,730	2.7	390	—	620	111.6	△200	—	△5.22
通期	159,250	3.5	2,130	—	2,640	—	240	—	6.27

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注)詳細は、添付資料P. 8 「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年2月期1Q	44,392,680株	2019年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2020年2月期1Q	6,103,709株	2019年2月期	6,103,709株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年2月期1Q	38,288,971株	2019年2月期1Q	38,288,975株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- ・四半期決算補足説明資料は、2019年7月10日(水)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 8
(追加情報)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦などの通商問題等の影響があるものの、企業収益や雇用・所得環境が改善する中、緩やかな回復基調が続きました。当外食産業におきましては、原材料価格や物流費、人手不足にともなう人件費の上昇等に加え、消費行動の多様化が進むなど、引き続き厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、商品力や店舗販売力の強化を目指すと共に、中長期での安定的な成長を見据え、FC化の推進や内製化の推進、海外事業の強化など、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、381億31百万円(前年同期比0.3%増)、営業損失は59百万円(前年同期は、営業利益2億7百万円)、経常利益は74百万円(前年同期比77.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は1億22百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失2百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高が前年同期実績を下回ったものの、前年の新規出店による店舗数の増加や、連結子会社の売上の増加が要因で前年同期実績を上回りました。利益面につきましては、効率的なプロモーション展開や教育募集費の低減等によりコストの削減に努めましたが、前年より実施してきた商品力強化による原価率の上昇などにより前年同期実績を下回りました。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第1四半期 連結累計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,748店	4店	13店	2,739店	34店
やよい軒	377店	4店	1店	380店	2店
MKレストラン	36店	—	—	36店	1店
合計	3,161店	8店	14店	3,155店	37店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第1四半期 連結累計期間末
ほっともっと	中国	2店	1店	—	3店
	韓国	15店	2店	1店	16店
	オーストラリア	1店	—	—	1店
やよい軒	タイ	187店	1店	—	188店
	シンガポール	8店	1店	—	9店
	オーストラリア	4店	—	—	4店
	台湾	18店	—	—	18店
	アメリカ	3店	—	—	3店
	フィリピン	3店	1店	—	4店
	マレーシア	1店	—	—	1店
合計	—	242店	6店	1店	247店

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

【ほっともっと事業】

持ち帰り弁当のトップブランドとして、おいしいごはんにこだわり、厳選した高品質の国産米を使用し、店内調理によるできたてのお弁当を提供することを基本に、肉厚とジューシーさ、そしてソースにこだわった新「ハンバーグステーキ」シリーズや、人気のおかず「6種野菜のおかずサラダ」を組み合わせさせた「プラスベジ」シリーズを新発売するなど、付加価値を高めた商品でのプロモーション展開や店舗販売力の強化で、お客様の更なる満足度向上に注力しました。また、FC化の推進や、当社グループ店舗で使用する商材の内製化の推進に取り組みました。

以上の結果、売上高は、269億31百万円(前年同期比1.2%減)、営業損失1億99百万円(前年同期は、営業利益9百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比0.7%減)が要因で、前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、効率的なプロモーション展開等によりコストの削減に努めましたが、前年より実施してきた商品力強化による原価率の上昇などにより前年同期実績を下回りました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、定番のステーキを爽やかに味わえる「さっぱりレモンのカットステーキ定食」や、ねばとろ食材でご飯が進む「ねばとろごはん鶏天の定食」を販売するなど、引き続きお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。また、「やよい軒公式アプリ」やSNS等を有効活用し、お客様の来店を促進を図りました。

以上の結果、売上高は80億7百万円(前年同期比3.4%増)、営業利益は3億78百万円(前年同期比2.1%減)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の増加(前年同期比0.3%増)と、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。営業利益につきましては、水光熱費や教育募集費の低減等によりコストの削減に努めましたが、原価率の上昇や人件費の増加等により前年同期実績を下回りました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定のスープや特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、東京の3店舗をタイスキ専門店にリブランディングを行い、売上の拡大と店舗収益の向上に努めました。

以上の結果、売上高は8億72百万円(前年同期比2.9%減)、営業損失は46百万円(前年同期は、営業利益11百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比7.0%減)が要因で、前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、人件費やリブランディングに伴う販売促進費の増加等により、前年同期実績を下回りました。

【海外事業】

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策の実行、食材調達現地化による店舗原価低減、出店の推進等により、事業の黒字化を目指しました。

以上の結果、売上高は9億91百万円(前年同期比24.6%増)、営業損失は1億71百万円(前年同期は、営業損失1億91百万円)となりました。

【その他】

宮島醤油フレーバー(株)は、調味料・加工食品のOEM(相手先ブランド名製造)を主な事業としており、既存顧客への新商品提案を積極的に行うと共に、新規顧客獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用する調味料等の開発も行っており、商品数の拡大にも注力しました。

以上の結果、売上高は13億27百万円(前年同期比1.6%増)となりました。利益面につきましては、当社グループ店舗で使用する調味料等で内製化した商品数が増えるなど生産量が増加したものの、のれん代の償却があり、結果としては営業損失12百万円(前年同期は、営業利益3百万円)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ23百万円増加し、874億10百万円となりました。内訳は、流動資産46百万円の減少、固定資産69百万円の増加であります。流動資産の減少は、現金及び預金3億6百万円の増加、未収消費税等3億71百万円の減少等によるものです。また、固定資産の増加は、有形固定資産1億33百万円の減少、無形固定資産52百万円の増加、投資その他の資産1億51百万円の増加によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ12億2百万円増加し、279億66百万円となりました。内訳は、流動負債12億63百万円の増加、固定負債60百万円の減少であります。流動負債の増加は、未払法人税等3億26百万円の減少、未払消費税等5億27百万円の増加、預り金2億45百万円の増加、賞与引当金3億55百万円の増加等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ11億79百万円減少し、594億43百万円となりました。内訳は、利益剰余金12億71百万円の減少であります。利益剰余金の減少は、配当支払による11億48百万円の減少などによるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2019年4月10日に公表いたしました予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,447	7,753
受取手形及び売掛金	2,377	2,305
商品及び製品	5,368	5,409
原材料及び貯蔵品	163	196
その他	2,805	2,478
貸倒引当金	△303	△331
流動資産合計	17,859	17,813
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35,381	35,312
その他(純額)	14,797	14,732
有形固定資産合計	50,179	50,045
無形固定資産		
のれん	1,086	1,039
その他	1,834	1,933
無形固定資産合計	2,921	2,973
投資その他の資産		
その他	16,458	16,609
貸倒引当金	△31	△31
投資その他の資産合計	16,426	16,577
固定資産合計	69,527	69,597
資産合計	87,387	87,410
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,229	6,366
短期借入金	317	435
未払法人税等	545	218
賞与引当金	335	691
ポイント引当金	186	226
株主優待引当金	162	103
資産除去債務	22	17
その他	8,763	9,766
流動負債合計	16,562	17,825
固定負債		
長期借入金	1,299	1,290
退職給付に係る負債	81	85
資産除去債務	5,671	5,690
その他	3,148	3,074
固定負債合計	10,201	10,141
負債合計	26,763	27,966

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,777	4,777
利益剰余金	63,537	62,266
自己株式	△11,897	△11,897
株主資本合計	59,878	58,607
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	5
為替換算調整勘定	22	128
その他の包括利益累計額合計	44	133
新株予約権	266	266
非支配株主持分	433	436
純資産合計	60,623	59,443
負債純資産合計	87,387	87,410

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
売上高	38,015	38,131
売上原価	18,069	19,109
売上総利益	19,946	19,021
販売費及び一般管理費	19,738	19,081
営業利益又は営業損失(△)	207	△59
営業外収益		
受取利息	8	7
受取配当金	0	0
固定資産賃貸料	31	33
受取補償金	20	35
受取保険金	28	51
その他	76	96
営業外収益合計	165	224
営業外費用		
固定資産賃貸費用	3	1
持分法による投資損失	9	12
為替差損	12	55
貸倒引当金繰入額	1	—
その他	15	18
営業外費用合計	42	89
経常利益	331	74
特別利益		
固定資産売却益	0	0
補助金収入	—	109
特別利益合計	0	109
特別損失		
固定資産処分損	52	64
減損損失	6	14
固定資産圧縮損	—	100
その他	2	1
特別損失合計	60	180
税金等調整前四半期純利益	270	4
法人税等	260	123
四半期純利益又は四半期純損失(△)	9	△119
非支配株主に帰属する四半期純利益	12	2
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	△122

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	9	△119
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	△16
為替換算調整勘定	△39	88
持分法適用会社に対する持分相当額	△10	17
その他の包括利益合計	△38	89
四半期包括利益	△28	△30
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△41	△33
非支配株主に係る四半期包括利益	12	3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	27,272	7,741	898	796	36,708	1,307	—	38,015
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	159	20	—	—	180	438	△618	—
計	27,432	7,762	898	796	36,888	1,745	△618	38,015
セグメント利益又は損失(△)	9	386	11	△191	214	3	△10	207

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	26,931	8,007	872	991	36,803	1,327	—	38,131
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	158	21	—	—	180	492	△673	—
計	27,090	8,029	872	991	36,984	1,820	△673	38,131
セグメント利益又は損失(△)	△199	378	△46	△171	△39	△12	△8	△59

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。